

2021年度 個人研究実績・成果報告書

2022年 4月 22日

所属	基盤教育機構	職名	専任講師	氏名	影浦亮平
研究課題	CSRを中心とした、個人や団体の活動と制度の倫理的基盤の研究				
研究キーワード	CSR, SDGs, 倫理、哲学思想、市民、文化、教育	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	8.働きがいも経済成長も	12.つくる責任 つかう責任	4.質の高い教育をみんなに	10.人や国の不平等をなくそう	

1. 研究成果の概要

哲学・倫理の理論面の研究論文2本（The influence of Joseph de Maistre on the monarchical idea of Kuga Katsunan、ベンヤミンのボードレー論とジョゼフ・ド・メーストル）と、SDGsまたはサステナビリティ関連の論文2本（集積資源と観光振興との相補性に関する考察—小田原における歴史・文化・産業の複合的活用を通じて—、【研究会報告】SDGsと倫理）、CSR関連の論文1本（インクルーシブ・ビジネスの理論的系譜に対する倫理的考察）、SDGs関連の口頭発表3回（SDGsと倫理、SDGsの思想的整理、SDGsに見える社会思想の今）が2021年度の研究成果である。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載） 【論文（査読あり）】

The influence of Joseph de Maistre on the monarchical idea of Kuga Katsunan、Ryohei Kageura、単著、2021年4月、History of European Ideas

集積資源と観光振興との相補性に関する考察—小田原における歴史・文化・産業の複合的活用を通じて—、堀口朋亨、村山弘太郎、影浦亮平、高浜快斗、共著、2022年3月、国際言語文化学会日本学研究、第7号、pp.1-18

【著書・論文（査読なし）】

ベンヤミンのボードレー論とジョゼフ・ド・メーストル、影浦亮平、単著、2021年10月、日本独文学会研究叢書144 柿木伸之、田邊恵子編「ベンヤミンの経験への問い——1930年代を焦点に——」（日本独文学会）、pp.29-42

【研究会報告】SDGsと倫理、影浦亮平、単著、2021年11月千葉商大紀要、第59巻、第2号、pp.207-209
インクルーシブ・ビジネスの理論的系譜に対する倫理的考察、影浦亮平・堀口朋亨、共著、2022年3月、千葉商大論叢、第59巻、第3号、pp.215-223

【学会発表等】

SDGsと倫理、国府台学会研究会、2021年6月、千葉商科大学

SDGsの思想的整理、日本語・日本語教育研究会 カルチュラル・スタディーズ研究会 第5回合同研究会、2021年12月

SDGsに見える社会思想の今、専修大学社会科学研究所シンポジウム「SDGsをめぐる現実と思想」、専修大学
(<https://youtu.be/sYlleBljx5k>)

3. 主な経費

出張旅費に加えて、パソコン、プリンター、ブックスキャナー、ICレコーダー等。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

京都外国語大学の共同研究費